

## 編集 後記

本号の掲載論文は論壇が1本、資料が2本、公衆衛生活動報告が1本です。論壇では、臨床試験の公表・報告バイアスについて論考がなされ、実例として抗うつ薬レボキセチンの臨床効果も紹介されています。精神病薬の薬効については、刊行バイアスのみならず、効果指標が質問紙得点に頼らざるを得ない点など、頭の痛い問題が多々あります。薬ならばプラセボ錠が使用可能ですが、各種心理療法や教育プログラムは完全なマスク化は困難です。今回の資料論文や公衆衛生活動報告にもありますように、保健指導を含む非薬物療法の効果の定量化は、公衆衛生学領域では重要なテーマです。

さて、私が勤務する帝京大学は開学50周年を記念して、第48回アジア・太平洋公衆衛生学術連合国際会議(APACPH)や第10回帝京-ハーバードシンポジウムなど国際学会を9月に合同開催しました。公衆衛生学の国際化がますます加速される中、日本の独自性や長所・短所を議論できる場として本誌の役割は重要性を増すと考えています。私の専門の1つである心身医学の立場から一言、二言。心身医学では障害によってできなくなったネガティブな部分を治療するだけでなく、障害があってもできるポジティブな部分にも注目します。その意味で、母校のハーバード大学公衆衛生大学院が、「健康と幸せ」を研究するセンターを今年開設したことは、喜ばしい出来事でした。また、10月末に開催される日本公衆衛生学会総会で、「ポジティブ心理学」をテーマにしたシンポジウムが企画されていることは、大変心強いです。上述の非薬物療法の治療・対応の効果も、プラセボ効果を含めて「ポジティブ心理学」につながるテーマとして深く議論したいところです。

(中尾睦宏)

## 次号予告 (第63巻・第11号)

### 原 著

- 中年を対象とした食事調査票からの食事パターンの抽出と栄養素摂取量の評価  
 .....伊藤智子, 他  
 向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発  
 .....酒井太一, 他  
 介護予防事業の身体的・精神的健康に対する効果に関する実証分析: 網走市における高齢者: サロンを事例として  
 .....今堀まゆみ, 他  
 一自治体における複合プログラムによる介護予防事業(すみだテイクテン)の評価  
 .....木村美佳, 他